

No.	資料番号／頁	コメント内容	対応内容
2-1	2-2 P. 1	資料 2-2 P. 1 の第 3 回に、「APC その他テロ対応のあり方を議論する。」とあるが、本記載では本 WG でテロ対応の方法について議論するように読める可能性があり、APC その他テロ対応設備の設計の議論をすることが目的のため「APC その他テロ対応（特重施設）のあり方を議論する。」に修正すべき。	拝承。
2-2	2-3 P. 7	P. 7 の設備容量について、現状の優劣比較の結果の記載は、大容量設備が必要な設備前提での記載であり、小容量でよい設備については当てはまらない。もう少し全般的な評価として記載すべきではないか。	拝承。但し、恒設の方が有利というのは、大容量が必要な場合は恒設の方が有利という主旨であり、小さい容量で良い場合は恒設が有利とはならないということも考えられるのでその意図は残したうえで一般的な記載に見直す。
2-3	2-3 P. 9	P. 9 の「自然災害への耐性」という要件は、「自然外部事象への対応」にしては？災害というと disaster、外部事象というと hazard なので外部事象のほうが適切。	拝承。
2-4	2-3 P. 9	P. 9 の多重性と多様性について、「DBA 設備とは独立した・・・」や「DBA 設備とは多様性を有した・・・」とあるが、断定的に結論を書きすぎでは？（新設での DBA の定義が明確になっていないため。）	拝承。断定的との御意見は理解。表現については、もう少し抽象的に書く等見直す。
2-5	2-3 P. 9	P. 9 の独立性に纏めて記載されているが、独立性と位置的分散は別物ではないか。独立性や多様性といったものが何を意図したものかわかる様記載しておいた方がよいのではないか。	拝承。内容がわかる様、表現を見直す。
2-6	2-3 P. 15	P. 15 の恒設設備が有利に対する個別説明と可搬型設備が必要に対する個別説明は記載内容の視点が異なる。視点を統一し表現を見直した方がよいのではないか。	拝承。表現を修正する。
2-7	2-3 P. 15	また、恒設設備と可搬型設備の記載に入る前に、新設炉としての設計の philosophy を記載したほうがわかりやすいのではないか。	拝承。新設炉における設計の philosophy を追記する。
2-8	2-3 全般	層間分離のあり方を整理すべきではないか。新規基準では深層防護における前段否定が重要視されているが、それは形式的要求であってはならず安全向上に係る合理性を有すべきである。 他にも、シビアアクシデントに対してはアクシデントマネジメントが重要ではないか。IAEA 等により、設計での想定を超えた事象に対する防護の層はアクシデントマネジメント（AM）と定義され、基本的考え方が整備されている。可搬型設備は AM 用の設備であるため整備された基本的考え方が活用できる。	色々のご意見出たが、「層間の独立性」「アクシデントマネジメントの考え方」「単一故障基準と考えるのはどこまでか」を留意事項として第 4 回で議論するという進め方でどうかと考えている。